

俳句帖
下

特 別
A5
6582
6



5
6582
6

< 98 - 142 >



竹
節



竹
節
竹
節
竹
節

々々々々々々々々

あさしなみさ

山



蕉代ハ相模の人ナリ

嵐牛ハ遠江の人ナリ

行々々々

下ハハハハ

さあさあ
とるん

山

正村氏様

孝子

田植

卓

卓



新

少

十

夕 鄭

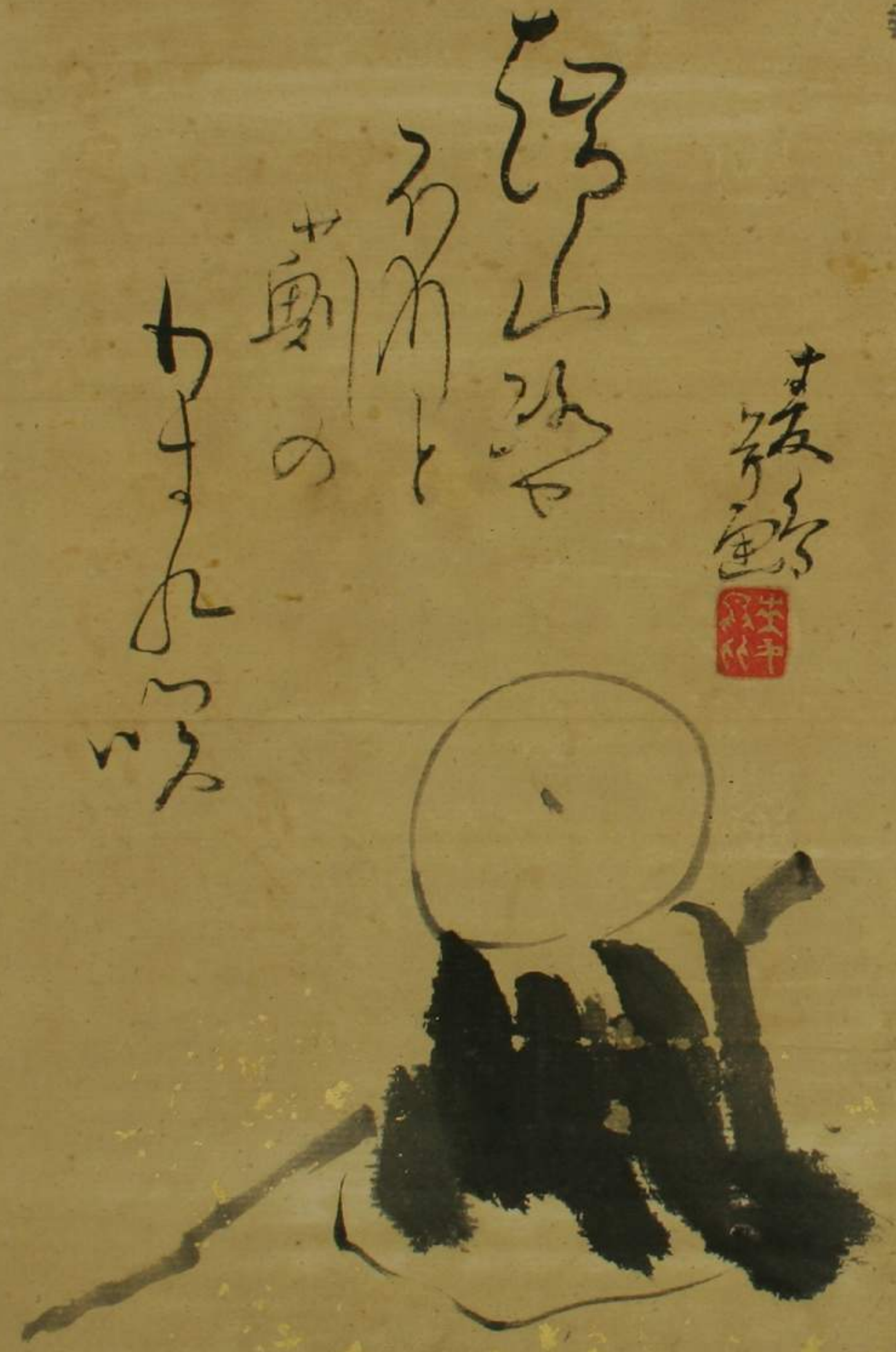
字
友

心後未門...
つ...
...

申...
...

冬島 阿波人

後...
...



山...
...

おのゝ

物

鳴る

子



木蓮八加賀ノ人ナリ

源

木



子

源

翰下寒



あつた

たつた

石史



三つ

つ

史



あつた

たつた

強力を吹く如し

云々やまの風

長風 

銘冠ハ薩摩人ナリ

如新の山連ハ

其の世の人

録

孫壽

梅田

五女

馬



月のさかすか

さかすか

あま

嵐夕ハ土佐ノ人ナリ

鏡川のさかすか

あま

あま

あま

あま


らーおとろ

一おとろ心も

おとろ心も

可也



藤村三河水 車常久十上毛淡川
後記
櫻江亭町三丁目住之板不隠丸

おとろ心も

おとろ心も

おとろ心も

物

おとろ心も



福
之
子
也

女

子

如
之



名
力
也

心
之
也

女
也

音

瑞
心



野子山

卷之

和

初

夫人

宛

上伏蒲横四

時

しほゆき

ゆきあかり

はるの光

りき


ゆきあかり

ゆきあかり


ゆきあかり

りき

いと技と

いそ子海と

垣少と

柳垣


青楼

文
うのちと

文
ととと

五


Handwritten signature in cursive script, followed by two red square seals.

Two lines of handwritten text in cursive script, positioned to the left of the signature.

Handwritten characters in cursive script, likely a name or title, located in the upper right section of the page.

Handwritten characters in cursive script, located in the middle right section of the page.

Handwritten characters in cursive script, located in the lower right section of the page.

Handwritten characters in cursive script, located in the lower left section of the page.

何れも

かき結ぶるの

内ねん

伊藤



萬歳の志願

念ふありき

非琴

世にあらざるは

し

世にあらざるは

し



何はせきおといふらん
宣なり

花と

告あ

無





此はくちの流也

目録の流也

北


此はくちの流也

此はくちの流也

邦



白雲如雪
鳥鳴林樾

意氣如虹

以紙如



寒女孤亭

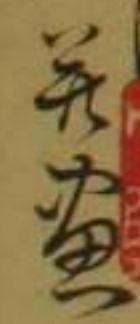


夜の
さるけ

閑さるけ

おのの白

お角市院



草子招の

子招の

草子招の

草子招の

草子招の



草子招の

草子招の

草子招の





ふたつにわかれし
初より一しめし
桂唐の



万像

ち

一

ふたつにわかれし

木山



五月廿九

亦去月廿九日

夕可也

解当

雲外全佳

中法西月名

折花宋梅

中法



志を高くしうまや
をいふ

花

系

野

小笠原

功

光

靈二年



野山

列

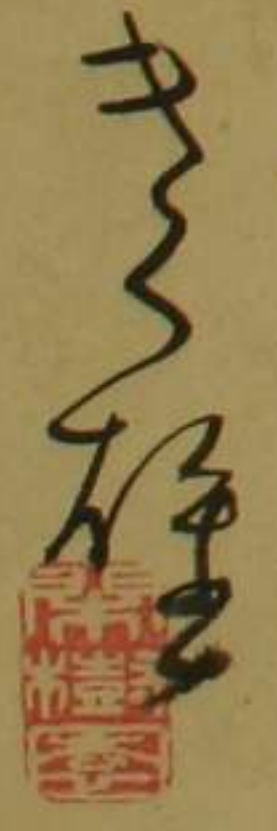


世多

少

花

梅



福如長子功の學

門の

福川の

新 十甫



福如長子功の學

福如長子功の學



さしとておとす

さしとておとす

在名府

美山

山

貫平 東京人

月に出る事

光る事

貫平





京極の美乃天喚手集
 彩古来の甘糟切やふり
 安を本は為子未了ころ
 なはは活紙成ひき紙ある
 人こそを撰そ小名山莊乃

世におきききききききき
 白丸まきききききききき
 ことききききききききき
 海内現存法象の百人一首を
 表めて一此の綴りきききき

正氣をそいひしる傲ひとの立
きを舞とらんこまあしねるを
於のつらしそらう勢ある深切の
大徳を歌仙徳の旨いさこのを
たうそらうもを貴はらふ事そ

あーとわし人徳の時代旦い尊
卑の魚鬪なきやしをあしね
は一帖の櫛を果して未世乃
金玉たらしはるも女尾跡の取
捨をしあつるまのぬをさう帖

上の次書は色紙の紙
家編編をよの供弊の字
者きなくてそとに拘り
そ又このあとの風をよす
るをよす

時を又久能え幸あ福午

日了多花後



